

第276回日文研フォーラム

めぐりめぐる日本文化

高馬京子

ミコラスロメリス大学 准教授 同大学アジアセンター長兼任
日文研外国人研究員

“Kawaii”をめぐる表象

——その形成と展開

ハラルドフース

ハイデルベルク大学 教授・日文研外国人研究員
ヨーロッパ日本研究協会(EAJS) 前会長

ポピュラー・カルチャーと世代間ギャップ

——ヨーロッパにおける日本研究の将来は如何に

深井晃子

京都服飾文化研究財団理事、チーフ・キュレーター

日本ファッションは「前衛」か？

——Future Beauty展の現場から

コメンテーター◎

山田奨治

日文研教授

司会◎

佐野真由子

日文研准教授

2014年3月11日(火)

午後6時30分～8時15分(開場午後6時10分)

ハートピア京都 3階 大会議室

入場無料(先着180名・申込み不要)

主催 | 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国際日本文化研究センター(日文研)

International Research Center for Japanese Studies



第276回 日文研フォーラム

めぐりめぐる日本文化 The Japanese Cultural Merry-go-round

マンガ、アニメを筆頭に、日本の現代文化の所産が海外各国で人気を得ている事実は、広く一般に知られています。今日、国内外で、それらが日本文化の代表的側面として取り上げられることも少なくありません。しかし、このような状況についてのわたしたちの理解は、いまだ表層的なレベルにとどまっているように思われます。

こうした現代の文化の広がり方は、19世紀、旅行者が持ち帰る希少な文物や、万国博覧会での展示などから、徐々に流行が拡大したジャポニズムの現象とも異なります。すでにいったん「西洋化」を遂げた日本で生み出される新たな「日本文化」は、実際のところ、各地でどのように受け止められているのでしょうか。海外のメディアや学術論文は、この現象をどのように取り上げ、それは次世代の対日態度にどのような影響を与えつつあるのでしょうか。

今回の日文研フォーラムでは、いま、世界に共有される現代日本文化をめぐり、それぞれの角度から豊富な経験を持つパネリストの顔合わせで、議論を試みます。

講師プロフィール

高馬 京子 ミコラスロメリス大学 准教授 同大学アジアセンター長兼任 / 日文研 外国人研究員

学習院大学文学部卒業後、ゲンゼ、ポロ・ラルフローレン ジャパンにおける広報PR担当を経て、2004年パリ12大学「言説、権力、社会」DEA修了、2006年大阪大学博士課程修了(言語文化学)。ヴィータウタスマグヌス大学研究員を経て、2012年9月より現職。2013年9月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。専門分野は言説分析、(異文化)コミュニケーション、異文化受容研究(大衆文化、ファッション)、言語教育(日本語、仏語)。

主要著作に、『日仏における日本人ファッションデザイナーの表象-日仏新聞の言説分析を通して(1981-1992)』(ヴィータウタスマグヌス大学出版2009年)、『KAWAII論: 越境文化としてのファッション(仮)』(明石書店刊行予定)などがある。

ハラルド フース ハイデルベルク大学 教授 / 日文研 外国人研究員 / ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)前会長

プリンストン大学歴史学部(東アジア学専攻)卒業。1995年、ハーバード大学歴史学部(東アジア学専攻)にて博士号(Ph.D)を取得。上智大学グローバル社会専攻学科准教授やシェフィールド大学ホワイトローズ東アジア研究センター日本学研究所長兼リサーチフェロー等を経て、ハイデルベルク大学教授と国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。専門分野は、近代日本史、社会経済史。

主要論著に、『Divorce in Japan: Gender, Family, and the State』(Stanford University Press, 2004)、『The Japanese Empire in East Asia and Its Postwar Legacy』(ed.) (Iudicium, 1998)、『"The Hesperia Incident 1879, Cholera Quarantine Regulations and Extraterritoriality in Japan"』(Japan Review, 国際日本文化研究センター, 2014)、『"Adultery and Gender Equality, 1868-1948."』(Law and Gender in the Japanese Imperium, Edited by Susan Burns and Barbara Brooks, Hawaii University Press)などがある。

深井 晃子 京都服飾文化研究財団 理事、チーフ・キュレーター

お茶の水女子大学、並びに同大学院修士課程にて西洋服装史を専攻。その後パリ第4大学(ソルボンヌ)で美術史を専攻。1979年より京都服飾文化研究財団(KCI)に勤務。現在、同財団理事、チーフ・キュレーター。「モードのジャポニズム」(1994)、「ラグジュアリー:ファッションの欲望展」(2009)といったKCIの展覧会を企画。これらは美術館におけるファッション展として開催された。2010年から2011年にかけては、日本ファッション展「Future Beauty:30 Years of Japanese Fashion」展が開催されている(ロンドン、ミュンヘン)。2014年春には京都国立近代美術館に巡回予定。また、2000年から2007年まで教授を務めた静岡文化芸術大学のほか、東京大学大学院や京都大学大学院での講義など、国内の大学においてファッション学の重要性を高めることに貢献している。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(通称:日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的として実施する催しです。1987年の設立以来、ほぼ月1回のペースで、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

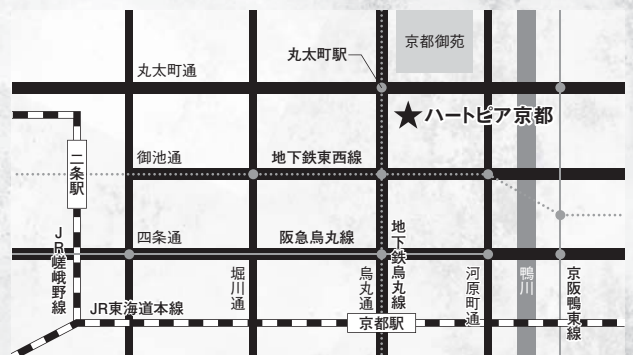
お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL: 075-335-2078

<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>



京都府立総合社会福祉会館 **ハートピア京都**

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車